

表題	クリ園の草生栽培のための適正草種	機関	農業研究センター 果樹研究所
概要	クリ園の草刈り作業の省力化のために草生栽培について検討した結果、イタリアンライグラスが雑草の抑草効果、再生力、緑肥効果の面から最も効果が高い。		

研究のねらい

本県のクリ園は傾斜地での栽培が多く、管理作業に多くの労力を要するとともに危険性を伴っている。

なかでも草刈り作業は、傾斜地であるため作業機械が利用できず多くの労力を要している。このため、草生栽培の適正草種を選定し、クリ園の草刈り作業の省力化を図る。

研究の成果

1. 雑草の抑制効果は、イタリアンライグラス3種が他の草種に比べ効果が高く、発芽後から倒伏時にかけて、さらに倒伏後は敷草代わりとして雑草の発生を抑制する。
2. 翌年の再生は、イタリアンライグラスは他の草種に比べ優れており、播種年と同様の雑草の抑草効果が得られる。
3. 有機物量は、10 a当たりの風乾重でみると、イタリアンライグラスはライムギに次いで多い。
4. イタリアンライグラスの早生種、中生種、晩生種を比較した結果、出穂期、倒伏時期は異なるが、雑草の抑草効果、再生力等については差がみられない。
5. 以上の結果、雑草の抑草効果、再生力、緑肥効果の面からみるとクリ園での草生栽培にはイタリアンライグラスが最も適している。

普及上の留意点

1. クリへの施肥とは別にイタリアンライグラスへの施肥が必要である。
2. コウモリガの寄主となるので、コウモリガの発生時期には主幹周囲は除草又は除草剤の散布を行う。

表1 草丈、被度の推移及び再生力

	草丈cm、(下段：被度%)							再生力
	11/18	12/19	1/17	2/19	3/24	4/17	5/20	
イタリアンライグラス(早生)	22.6 (90)	34.1 (100)	30.1 (100)	32.9 (100)	54.1 (100)	109.5 (100)	100 (100)	
" (中生)	26.1 (90)	40.1 (100)	37.9 (100)	33.9 (100)	57.1 (100)	95.9 (100)	100 (100)	
" (晩生)	22.5 (60)	31.7 (100)	36.0 (100)	29.9 (100)	44.2 (100)	73.6 (100)	100 (100)	
シロクローバ	1.0 (10)	3.8 (30)	5.4 (30)	5.3 (60)	23.1 (10)	32.7 (10)	30- 40 (10)	×
ライムギ	30.2 (100)	32.2 (100)	33.2 (100)	34.8 (100)	79.6 (100)	165.5 (100)	180-190 (100)	
ケンタッキーブルーグラス	8.2 (80)	12.8 (80)	14.8 (60)	11.4 (50)	13.3 (10)	22.3 (5)	30- 40 (5)	
ヘアリーハッチ	17.8 (80)	31.3 (100)	32.6 (100)	48.0 (100)	95.1 (100)	133.2 (100)	50 (100)	×
オーチャートグラス	15.5 (80)	18.7 (80)	16.2 (80)	16.0 (80)	19.5 (80)	36.9 (80)	50- 60 (80)	

注：再生力（翌年の発芽） 良好 やや不良 ×不良

表2 生育状況等

草種名	出穂期	倒伏時期	生草重	風乾重
	(開花期)		(g/m ²)	(g/m ²)
イタリアンライグラス(早生)	4月上旬	4月下旬～	3980	620
" (中生)	4月中旬	4月下旬～	4160	660
" (晩生)	4月下旬	5月上旬～	5010	680
シロクローバ	-	-	2270	420
ライムギ	3月下旬	5月中旬～	5870	1250
ケンタッキーブルーグラス	-	-	1720	450
ヘアリーハッチ	4月中旬	-	8800	430
オーチャートグラス	5月下旬	-	3420	550

注：倒伏時期は倒れ始めた時期



写真1 イタリアンライグラスの播種後1ヶ月の状況



写真2 イタリアンライグラスの播種後6ヶ月の状況